

再生可能な空き家の活用事例【日置市美山】

■美山の空き家活用に至った経緯

江戸時代に朝鮮半島より伝来し400年以上の歴史をもつ薩摩焼は、美山地区が県内でも最大の生産地となり最盛期には約50軒の窯元があった地域でした。しかし、少子高齢化の影響もあり現在では12軒となり、このまま減少し続けば薩摩焼の里が消滅する可能性が懸念されていました。

この事により危機感を感じた地区公民館、美山未来つなぎ隊（地元青年部の集まり）と協働作業により地区内の廃墟同然の空き家を観光案内施設や新たな地域コミュニティ施設として利活用するための幾度の協議と視察研修をおこないました。今回の再生により観光地のメインストリート沿いにある危険な空き家が長年放置されたまま、家財道具も整理されずに時間が止まった状態の空き家を観光地美山の新たなコミュニティ施設の拠点として生まれ変わりました。

現在は観光案内所と地域内外からの視察・地域コミュニティ・美山マルシェ等の活用で観光地として、常に話題性のある施設として活用をおこなっています

空き家の活用事例

再生可能な空き家の新たなコミュニティ施設としての活用事例

鹿児島県日置市東市来町美山地区内にある築50年以上の廃墟同然の空き家物件を地域の宝として地区公民館、地域コミュニティ、行政、建築及び専門家と協議し、空き家の管理、保存、活用に向けての課題・問題点の検討をおこないました。又空き家の活用専門家団体・地域住民と更に協議し、今回の空き家の活用に向けた未来塾・ワークショップ等を開催し参加者による色々な意見の抽出もおこなりました。現在は日置市による地域おこし協力隊と美山地区の協働による空き家の管理・保存・活用を継続的に行っており、地域コミュニティの起爆剤として更に地域内外からの視察も増え、「定住・移住促進」による人口増、関係人口・継続的な交流により地域活性化に繋がっています。

空き家を活用ビジネスとした今後の展開

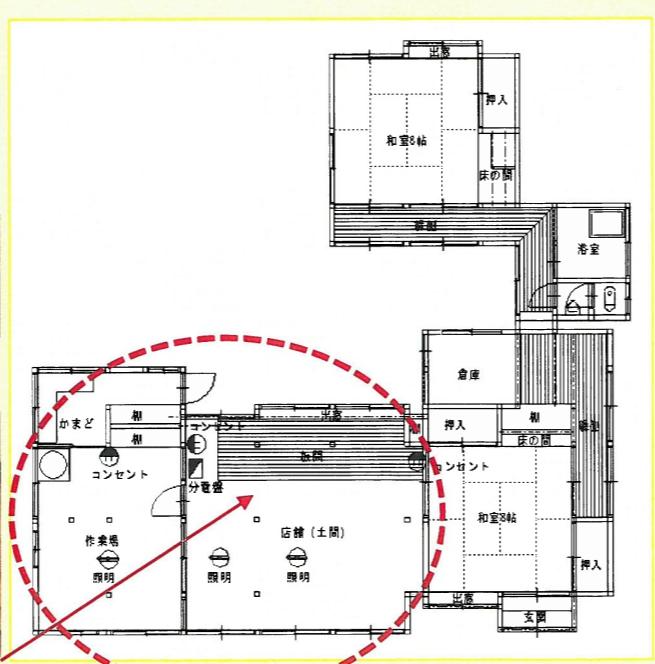
今後も空き家活用の取組みの拡充が求められる中、今回の空き家の再生・保存・活用を通じて、空き家を地域住民が地域の宝として見直し、終活・生前整理として空き家・家財道具・仏壇・お墓等の事も含め、改めて空き家活用に考えて頂く機会になったのではないでしょうか。

1. 今後、鹿児島県の全ての市町村・各地区公民館・福祉施設・病院において個別相談・終活・生前整理セミナーを定期的に開催し空き家予備軍の再生可能な空き家の流通促進を図る。
2. 今後、各市町村において空き家対策の取り組みで「空き家バンク」「空き家調査」「定住促進による補助金」「リフォーム」「家財道具の整理」等による補助金・法律相談の支援を図る。空き家の所有者・相続人への普及・啓発を活用事例として生前整理の促進を図る。
3. 空き家を次世代へ繋ぐため、今回の空き家を「管理・保存・活用」に向けた活用事例としてネットワーク化による情報の共有化を図り、居住・店舗・子育て支援・弱者対策を推進する。

Before



After



長年廃墟同然の空き家の家財道具の整理・清掃活動を地元の方と協働作業により実施をおこなった。



今回の空き家が國民文化祭・窯元祭りで観光案内所、薩摩焼のアンテナショップとして活用された。



美山住民とその他地域住民との協働作業により空き家の再生に向けた改修作業をDIYで行った。



空き家再生により周辺の土地活用にも波及し継続的にマルシェ等の開催により更に継続的に活用される。

